

本文は、市議会3月定例会で行った施政方針演説の一部を抜粋したものです。



高浜市長 吉岡初浩

【おさらい】

高浜市のまちづくりの礎となる自治基本条例と第6次総合計画がスタートし、間もなく1年が経つとしていきます。

第6次総合計画では、みんなで考え、行動し、目指す姿を掲げて達成状況を評価するという基本理念に基づき、「高浜市の未来を創る市民会議」を立ち上げ、市民の皆さまのご協力のもと、計画の進行管理やまちづくりの提案を行っています。

昨年は、東日本大震災を受け、防災意識を高めるため、津波・大雨被害に備え、土地の標高を電柱などに表示する標高サインの設置が市民会議より提案され、間もなく完了するところですが、市民会議では、防災だけでなく、教育、産業、福祉などあらゆる分野について検討が行われており、平成24年度は、この動きをさらに加速させ、市民と行政が互いに知恵や力を活かしたい住みよい高浜市を目指してまいります。

に、住民同士が相互扶助する「結」という伝統的な制度がありました。

水路の清掃・維持管理、共有地の管理、草刈りなど、地域住民の当然の義務・役割として認識され、強制されることなく自発的に担ってきた活動です。

しかし、都市化が進み、人々の生活スタイル、地域コミュニティが変容し、また、そもそも助け合うための担い手が不足したことから、多くは失われつつあるのが現状です。

第6次総合計画の将来都市像である「思いやり 支えあい 手と手をつなぐ 大家族たかま」は、日本の伝統である「結」を再生させ、現代風にアレンジしたまちづくりであり、この考え方を基本に各種施策を展開してまいりますと考えています。

【平成24年度重点施策】

「安心安全」「健康」「ごども」に重点を置いた「高浜市の未来を創る予算」

総合計画を「みんなで考え、みんなで行動する計画」としていくため、高浜市の未来を創る市民会議により市民とともに目標の達成度などを検証しながら達成に向けて行動していきます。

公共施設のあり方検討につきまして、限られた財源、資産をより有効に活用するため市民センターを中心とした公共施設あり方検討委員会と行政職員で構成するプロジェクトにより検討を進めてまいります。

子どもたちを学びの根っここと捉え、生涯学習基本構想の実現に向け、世代を越えてお互いに学び合い、まちも人も成長していけるような仕組みと生涯学習の担い手の養成を行います。

次代を担う子どもたちのために、中・高校生の居場所「バコ八」、「タカハマ物語」での経験を礎として、自らが考え企画し、実践するという創造力と成体験が得られるよう、子ども・若者成長応援事業を実施してまいります。

安心して子どもを産み育てることができるよう、子ども医療費の無料化を引き続き実施するとともに、家庭的保育所の増設と「子育て家庭支援者養成講座」の開催など、子育て支援の担い手となる人材育成を進めてまいります。

企業支援、企業誘致に積極的に取り組む、新たな雇用の創出と安定した財政基盤の確保に努めます。

中小企業者につきましては、がんばる事業者応援補助事業をリニューアルし、販路の開拓な

どを支援する内容を盛り込んだ「新がんばる事業者応援補助事業」を実施してまいります。

観光につきましては、刈谷市との定住自立圏共生ビジョンの観光分野における協力的体制並びに市内の関連団体との連携体制を推進するとともに、高浜市観光協会の活動を支援し、魅力ある地域資源の発掘を行ってまいります。

幹線道路・生活道路の整備について、衣浦大橋東交差点など幹線道路事業の早期完了に努め、生活道路については、市道港線など、人口減少や超高齢社会への対応に向けて、日常生活に必要な道路網の整備を計画的に進めてまいります。

防災対策としては、一人ひとりが自助意識を高め、地域の安全を確保できるようソフト事業を充実させるとともに、同報系防災無線の整備、屋外拡声器の設置と、移動系の防災無線をデジタル化し避難所間の情報共有が図れるよう、防災インフラの整備も進めてまいります。

子どもから継続して支援できるよう、いきいき広場に開設した「子ども発達センター」に、言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士といった専門職を配置し、保健師や保育士、教諭と連携して、子どもの成長を支援するとともに「親支援」が

できる体制を整えます。

介護体制の充実のため、あらたに小規模特別養護老人ホームを整備する事業者に対し、整備費の補助を行うとともに、高齢者の皆さんが健康で人生の現役であり続けることを目的とした「生涯現役のまちづくり」を市内各所の社会資源の活用と企業資源との連携により構築してまいります。

地域医療の充実のため、刈谷豊田総合病院と圏域内の診療所をインターネットで結び、紹介時の健診予約、検査予約の効率化や診療情報の共有化など、刈谷豊田総合病院を中核とした地域医療連携ネットワークを構築してまいります。

【おさらい】

一つひとつの事業は、「今」という「時間」と「空間」の中で進められていきますが、人と組織は相互に作用しながら次の時代へ向かっていきます。こうした、「時間」と「空間」こそで活動する人と組織「が一体となつてはじめて、地域経営の新しい展開が可能となると考えています。

それぞれの事業を「大家族たかま」という森を創る一つひとつの種として見ていただき、今後歩みをとめず進んでまいります。